

うまい病院便

令和7年11月1日号広報ちはら台へ掲載しました

第61号

輸血用の血液確保が心配です

千葉ろうさい病院
中央検査部長 浦谷 寛

医療機関では、患者さんが十分な血液を作れない場合や、大量出血により生命の危険が生じる場合、または血液を固めるための凝固因子が不足し出血が止まりにくい場合などに、これらを補うために輸血療法が行われることがあります。

この輸血療法に必要な血液を提供するのが「献血」です。献血とは、健康な人が自らの血液を無償で提供するボランティア活動です。残念ながら、現在の技術では輸血に必要な血液を人工的に作ることも、長期間保存することもできません。つまり、血液を安定的に供給するためには、常に一定数の献血者を確保しておく必要があります。

では、実際の供給状況はどうなっているのでしょうか。

日本国内では少子高齢化の影響により、輸血を必要とする高齢者が増加する一方で、若い世代の人口は減少しています。千葉県内では、10代から30代の若年層の献血者数が10年前と比べて約17.8%減少しています。それでも血液不足に陥らずに済んでいるのは、50代・60代の献血者の方々に支えられているからです。

しかし、このままでは献血を支えている世代が高齢化し、次世代の献血基盤となる若年層の増加がなければ、必要な血液の確保に支障をきたす恐れがあります。今後の安定供給のためには、特に若い世代の献血への理解と協力が不可欠です。

千葉県内では、6か所の献血ルームと10台の献血バスで献血を実施しています。献血バスの運行スケジュールは、千葉県赤十字血液センターのホームページで確認できます。事前予約も可能ですので、ぜひご協力をお願いいたします。

<h1>ううさい 病院便り</h1> <h2>第61号</h2>	
<h1>輸血用の血液確保が心配です</h1>	
<p>医療機関では、患者さんが命を分なぎ血液を作れない場合や、大量出血による命の危険が生じる場合、または血栓を防ぐために出血が止らなくなってしまった場合など、これらを補うために輸血をうながすことがあります。</p> <p>この輸血法に必要となる血液を供するのかどうか、実際の供給状況についてお聞きします。</p>	<p>は、健常な人が自らのボランティア活動をする。血液を輸血に必要な血液を充て、血を必要とする高齢者や、長期間保存する。この世の人口は減少していく。千葉県内では、10代から30代の方の献血者数が10年前と比べて約17.8%減少しています。それでも血液不足に陥らなければ、千葉県は、千葉県十日市血液</p>
<p>は、健常な人が自らのボランティア活動をする。血液を輸血に必要な血液を充て、血を必要とする高齢者や、長期間保存する。この世の人口は減少していく。千葉県内では、10代から30代の方の献血者数が10年前と比べて約17.8%減少しています。それでも血液不足に陥らなければ、千葉県は、千葉県十日市血液</p>	<p>は、健常な人が自らのボランティア活動をする。血液を輸血に必要な血液を充て、血を必要とする高齢者や、長期間保存する。この世の人口は減少していく。千葉県内では、10代から30代の方の献血者数が10年前と比べて約17.8%減少しています。それでも血液不足に陥らなければ、千葉県は、千葉県十日市血液</p>
<p>は、健常な人が自らのボランティア活動をする。血液を輸血に必要な血液を充て、血を必要とする高齢者や、長期間保存する。この世の人口は減少していく。千葉県内では、10代から30代の方の献血者数が10年前と比べて約17.8%減少しています。それでも血液不足に陥らなければ、千葉県は、千葉県十日市血液</p>	<p>は、健常な人が自らのボランティア活動をする。血液を輸血に必要な血液を充て、血を必要とする高齢者や、長期間保存する。この世の人口は減少していく。千葉県内では、10代から30代の方の献血者数が10年前と比べて約17.8%減少しています。それでも血液不足に陥らなければ、千葉県は、千葉県十日市血液</p>

